

3月21日
唯一の神を信ず
ローマ人への手紙
3章27～31節

3:27 それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それはすでに取り除かれました。どういう原理によってでしょうか。行ないの原理によってでしょうか。そうではなく、信仰の原理によってです。

3:28 人が義と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが、私たちの考えです。

3:29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人にとっても神ではないのでしょうか。確かに神は、異邦人にとっても、神です。

3:30 神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認めてくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるのです。

3:31 それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになるのです。

ローマ書3章の神の義を
2月21日、現れた神の義、
2月28日、信仰による神の義、
3月7日、贖いによる神の義
と説教をさせていただきました。
今日はローマ3章最後の所から
「神が唯一なら」という個所を中心に
ローマ3章27～31節から
語らせていただきます。

3:30 神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認めてくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるのです。

割礼のあるユダヤ人であっても
割礼のない異邦人であっても
信仰によって義と認められる。

律法を持っているユダヤ人であっても
信仰を持たなければ義とされない。

義とされるためには必要なのは
信仰を持つことだけである。

もはやユダヤ人と異邦人の区別がなくなってし
まっています。

なぜなら神は唯一であるからです。

今日は信仰によって義とされた
二人の異邦人をマタイ福音書から学んで行き
ます。

8:5 イエスがカペナウムにはいられると、ひとりの百人隊長がみもとに来て、懇願して、

8:6 言った。「主よ。私のしもべが中風やみで、家に寝ていて、ひどく苦しんでおります。」

8:7 イエスは彼に言われた。「行って、直してあげよう。」

8:8 しかし、百人隊長は答えて言った。「主よ。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おことばをいただかせてください。そうすれば、私のしもべは直りますから。

8:9 と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私自身の下にも兵士たちがいまして、そのひとりに『行け。』と言えば行きますし、別の者に『来い。』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ。』と言えば、そのとおりにいたします。」

8:10 イエスは、これを聞いて驚かれ、ついて来た人たちにこう言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしはイスラエルのうちのだれにも、このような信仰を見たことはありません。」

8:11 あなたがたに言いますが、たくさんの人が東からも西からも来て、天の御国で、アブラハム、イサク、ヤコブといっしょに食卓に着きます。

8:12 しかし、御国の子らは外の暗やみに放り出され、そこで泣いて歯ぎしりするのです。」

8:13 それから、イエスは百人隊長に言われた。「さあ行きなさい。あなたの信じたとおりになるように。」すると、ちょうどその時、そのしもべはいやされた。

百人隊長はローマの兵士ですから
異邦人です。

律法を持っていません
割礼も受けていません。

しもべが中風のために家で
寝込んでいます。

ひどく苦しんでいます。

イエスは彼に「行って彼を治そう」
と言われた。

百人隊長は「ただ、お言葉を下さい。そうすれば
私のしもべは癒されます。」

汝のしもべの中風よ、癒されよ、と命令してくだ
さい。

ローマの兵士の世界でも
部下に行けと言えば必ず行きます。

ローマ皇帝の命令にはみな必ず従います
皇帝以上の神の子、メシヤであるイエス様が
病気よ癒されよ、と命令くだされば
しもべの病気は必ず癒されると
確信しています。

このようなイエス様を信じる信仰を
持っていました。

この百人隊長の信仰はどこから来たのでしょうか。

同じカペナウムの町で中風の男が4人の男に担がれてイエス様の所に屋根をはいでつり下され、

イエスは男に床を取り上げて歩きなさい、
と命じられるとすぐにこの男は癒され立ち上がりました。

取税人のマタイもイエス様を信じて立ち上がって
イエス様の弟子になっていきました。

マタイは9章に中風の癒しの記事を記載していますが、時間的には、中風の癒しの出来事の方が先に起こっています。

百人隊長は中風の男の癒しを目撃し、
取税人のマタイの人生が変えられたのを見て、このイエス様は救い主と信じて
イエス様の所にしもべの癒しを求めて来て
います。

異邦人であっても信じれば救われ、
ユダヤ人であっても信じなければ
義とされないことをイエス様は
証言しています。

救われるために必要な唯一のことは
イエス様を信じることです。

もう一方はマタイ15章21節からです。

15:21 それから、イエスはそこを去って、ツロとシドンの地方に立ちのかれた。

15:22 すると、その地方のカナン人の女が出て来て、叫び声をあげて言った。「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです。」

15:23 しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。そこで、弟子たちはみもとに来て、「あの女を帰してやってください。叫びながらあとについて来るのです。」と言ってイエスに願った。

15:24 しかし、イエスは答えて、「わたしは、イスラエルの家の滅びた羊以外のところには遣わされていません。」と言われた。15:25 しかし、その女は来て、イエスの前にひれ伏して、「主よ。私をお助けください。」と言った。

15:26 すると、イエスは答えて、「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです。」と言われた。

15:27 しかし、女は言った。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」

15:28 そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。

イエス様はツロ・シドンの地方に
行かれました。

ユダヤ人の攻撃が激しくなって
きたからです。

そこで一人のカナン人の女に
出会われました。

この方も異邦人です。

この方はご自分のくにに来られたのに、
ご自分の民は受け入れなかった。

ヨハネ1章11節

このカナン人の女は

イエス様がメシヤであり、ユダヤ人はイエス様をメシヤと認めないで拒否していることを知っていた
ようです。

疲れをいやすためにイエス様は異邦人の地、ツ
ロフェニキヤに逃れて来ておられます。

「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。
娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです。」
イエス様を、主よ、ダビデの子と呼んでいます。
イエス様を救い主、メシヤと信じ懇願しています。

あわれんでください
メシヤの力によって癒してください
救ってくださいと叫んでいます。

15:23 しかし、イエスは彼女に
一言もお答えにならなかった。
カナンの女が、これだけ懇願しているのに
イエス様はお答えになっていません。

そこで、弟子たちはみもとに来て、
「あの女を帰してやってください。
叫びながらあとについて来るのです。」
と言ってイエスに願った。
弟子たちからも拒否をされています。

カナンの女はめげないで叫び続けました。

15:24 しかし、イエスは答えて、「わたしは、イスラエルの家の滅びた羊以外のところには遣わされていません。」と言われた。

ユダヤ人の所に来たのであって
異邦人のあなた方の所に来たのでは
ありません。

と3度目の拒否にあっています。

でもそのユダヤ人はイエス様を拒否していること
をカナンの女は知っていました。

それでもなお女はめげないで

15:25 しかし、その女は来て、イエスの前にひれ伏して、「主よ。私をお助けください。」と言った。

イエス様の後ろから懇願していましたが
イエス様の前に回って、進路を遮るようにして、
ひれ伏して土下座をして
お願いしました。

15:26 すると、イエスは答えて、
「子どもたちのパンを取り上げて、
小犬に投げてやるのはよくないことです。」
と言われた。

子供たちとは神の子供、
ユダヤ人を指しています。

子犬とはカナン人など異邦人を指しています。

癒しなど神様の恵みはユダヤ人のための
ものでそれを取り上げて異邦人にあげることは
良くない、

と4回目の拒否であります。

このカナンの女は信じ続けて叫びました。
イエス様をダビデの子と信じていました。
神の子メシヤは、えこひいきしないことも
信じていました。

イエス様の急所を突きました。

15:27 しかし、女は言った。「主よ。そのとおりで
す。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンく
ずはいただきます。」

せっかくいのちのパンをユダヤ人たちの
テーブルに届けておられるのに、
神様の子供たちのユダヤ人たちは
イエス様を拒否しているではありませんか。
イエス様の救いのパンもいただかないで
拒否してパンをテーブルから
振り落としているではありませんか。

子犬のような私たち異邦人もユダヤ人の拒否したイ
エス様の恵み、捨てたパン、あわれみを受けることが
出来るでしょう。

15:28 そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。

百人隊長に言われた言葉と同じです。

このような立派な信仰はイスラエルの中にも見たことがありません。(ルカ7章9節)

あなたの信仰は立派です。ただしい信仰、イエス様をメシヤと信じる、自分を罪びとと理解する信仰。

彼女の娘の病はその時、癒されました。

神はユダヤ人だけの神ではなく
異邦人の神でもあられます。

なぜなら

神は唯一だからです。

信じるだけで百人隊長のしもべを癒し、

カナン人の女の娘も

信じるだけで癒され、義とされて

神様の国の子供とされて行きました。

二人の異邦人から
義とされる信仰を見せていただきました。
私たちも心から信じて
義とされ、義の実を实らせていきましょう。

祈り

主イエス様、あなた様には差別がありません。ユ
ダヤ人であっても、異邦人であっても

素直に信じ、イエス様に願っていくものを義とし
て、受け入れ、救って下さり、心の中からから悪
い霊、罪を追い出して

私たちの心にイエス様が住んでくださって
私たちを聖い聖霊の宮としてくださることを感謝
します。救われた私たちは主を喜びほめたたえて
主の道を歩ませてください。アーメン。